

護衛艦「ありあけ」一般公開に2500人来艦



6月16日(日)長崎地本(本部長・小谷1海佐)は海上自衛隊護衛艦「ありあけ」(艦長・田中裕昭2海佐)第16普通科連隊(連隊長・南野延寿1陸佐)の支援を受け、長崎市水辺の森公園出島岸壁において艦艇広報を実施しました。

接岸一般公開が実施されました。主催の入港歓迎行事では、甲板上で武器操作展示をはじめ、ラップ演奏や乗員によるパネル展示やシミュレーション、格納庫内では海上自衛隊の職種を紹介したパネル展示やロープワークの体験コーナーなど、バラエティに富んだ催しを実施されました。

富んだ催しは、16普通科連隊の車両展示やミニ制服の試着、VR体験などを実施しました。1日のみの一般公開でしたが、2500名余の来場者で賑わいました。

よう機会を捉えて広報活動を実施し、自衛官募集に繋げて参ります。(広報室)

長崎地本だより

発行所
自衛隊長崎地方協力本部
長崎市出島町2番25号
TEL 095-826-8844



平成新山防災視察登山に参加

島原地域事務所は5月21日(火)九州大学地震火山観測研究センターが実施する、雲仙・普賢岳溶岩ドーム(平成新山、1,483m)の防災視察登山に参加しました。

防災視察登山は溶岩ドームの現状を把握するために、年2回実施されている登山です。

今回は27機関66名の参加があり、島原地域事務所からは吉田2海曹と永川3空曹の2名が参加しました。

当日は大変天候にも恵まれました。登山を開始し、立ち入りが禁止されている警戒区域内に入ると、岩石が無造作に積み重なる不安定な急斜面となり、時には四つんばいで登り、噴火から28年経った

今でも、当時の噴火のすさまじさを改めてうかがうことができませんでした。

頂上付近に到着すると、研究センターの松島健准教授から溶岩ドームの動きについて、「現在の火山活動は落ち着いた状態のようであるが、地震で溶岩ドームが崩落する可能性がある」という説明を受け、改めて即応性に対する意識が高まりました。

この防災視察登山は、島原半島で勤務する自衛官として、再度防災について考えさせられるものとなりました。

そして、災害の記憶を風化させてはいけなくと強く感じた日になりました。(島原地域事務所)



投稿 長崎県自衛隊家族会定期総会を開催

長崎県自衛隊家族会(会長 浦田正)は、5月20日(月)長崎地本の支援のもと、定期総会を開催しました。

今回は、各地区会長、役員合わせて46名の参加があり、平成30年度事業報告、令和元年度事業計画(案)、令和元年度役員承認及び会則の変更等を議案として審議を行いました。

表彰式では、自衛隊家族会会長表彰受賞者3名、県自衛隊家族会会長表彰受賞者4名に対し、会長より賞状と記念品がそれぞれ授与されました。最後に「わたくしたちの信条」を役員一同で読み上げて、改めて家族会員としての自覚を胸にしました。

総会終了後、意見交換会を行い大村市長や各部隊長のご臨席を頂き盛況のうちに終了いたしました。

事務局長 横尾 博道



